

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100516		
法人名	社会福祉法人 わかうら会		
事業所名(ユニット名)	わかうら園第2グループホーム 鶴		
所在地	和歌山県和歌山市田野178番地		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村受理日	平成25年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

和歌浦の高台にあり遠くは四国、淡路島、近隣には田野、雑賀崎漁港が一望できる。1階に認知症対応型デイサービスが隣接には特別養護老人ホーム、ショートステイ、第1デイサービス、ホームヘルパー、診療所、ケアプランセンター、ケアハウス等多様なニーズに対応できるようになっています。第2グループホームでは入居者同士の交流、職員間の情報交換等2ユニットの利点を活かしています。法人全体の研修等でサービスの質の向上を図り、事業所理念を目標に家族、主治医、訪問看護ステーション等と連携し入居者一人一人が地域の一員として豊かな暮らしを送れるように支援する事を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和歌浦の高台に位置する事業所から和歌浦湾と山々の調和のとれた美しい自然が一望できる。事業所と、同法人が運営する特別養護老人ホームやデイサービス、有料老人ホーム等があり、多様なニーズに対応できる地域の社会資源として大きな役割を果たしている。そういう中でも独自の理念を掲げたり、外部の訪問看護ステーションとの連携を図ったりと、事業所としての独自性も伺える。さらに、総合的な福祉サービスを提供している法人の強みを最大限に活かし、地域との活発な交流や経験豊かな人材の確保等に努め、理念に掲げている『こちよい我が家 私らしく笑顔で共に歩もう』を正に実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は事業所理念をフロアや介護員室の目につく所に掲げ意識づけする事により共有し日々の実践に繋げている。	理念は、職員全員で話し合っ考えたこともあり、職員個々に『こちよい我が家』の実現への思いが浸透している。また、毎月1回開催される事業所会議等でも啓蒙に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設全体の夏祭りでは、入居者や家族、地域の方々と交流し、地域のボランティアと盆踊りの練習をしたり近隣の祭りに参加する等地域との繋がりを大切にしている。	園長が、この地域の自治会長でもあり、地域の行事等の情報を得ると共に、事業所も含めた法人の様子を地域に発信でき、地域との情報交換が円滑に行われている。また、学生の福祉体験や民謡等のボランティアグループの受け入れも積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地域に施設のパンフレットを配布したり、学生の実習の受け入れ、近所のスーパーや外食に行く等して認知症の人の理解、支援の在り方を見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し外部の人々、入居者家族の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合いサービスの質向上に努めている。	平成25年5月からは、2ヶ月に1度の運営推進会議を開催できている。また、支所長、民生委員、自治会長、ご家族、利用者のバランスの取れた参加者で構成され、会議では、事業所からの報告はもちろん、自治会活動の報告もなされ、事業所と地域相互の情報共有が図られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地区支所、地域包括支援センターに運営推進会議に参加して頂いたり、事務手続きや訪問調査の折実情やケアサービスの取り組みを伝えている。	運営推進会議では、支所長、地域包括支援センター職員の参加がある。また、市の介護認定調査においても、事業所職員が積極的に関わりを持つように努め、利用者の状況を伝えるようにしており、良好な協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外の研修に参加し身体拘束の具体的な行為を理解して「しなくてもケアできる」ようにチームで原因等も考え実践している。	身体拘束廃止に向けた内部及び外部の研修会に職員が参加し、職員全員に周知できるよう伝達研修も実施している。また、ケア困難な支援を強いられる場面において、見守りや声かけ、外出支援等、試行錯誤しながらも最善と思われるケアの実践がなされている。	利用者の心身の変化に対応するため職員は最善のケアを実践しているが、1つのユニットにおいて、利用者の安全確保のため玄関が一時的に施錠されている。事業所が2階にあり、玄関先が階段という環境面も憂慮されるが、出来る限り利用者の行動を制限しない取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外の研修や事業所会議などで学び職員間で疑問なケアについて気兼ねなく意見交換できるようつとめている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者が必要とするときに活用出来るよう施設内研修や公的機関の冊子で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定に於いては十分な時間をとり入居者、家族に説明を行い疑問点はいづでも説明が行えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族連絡ノートで意見交換したり、利用者と団欒の時等に意見、要望を聴き行事の見直し改善策を話し合い運営に反映させている。	ご家族と事業所の情報交換の方法として連絡ノートを作成し、家族の面会時にノートのやり取りで利用者の様子を報告したり、家族の意向を確認している。面会に余り来られない家族に対しても、ノートをしばらくの間預ける等して、事業所からの積極的な働きかけをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見や提案を行える雰囲気になっている。又月1回の事業所会議で話し合い検討し運営に反映させている。	定期的に行われている事業所会議の場面において、利用者の事故防止の検討等、日常のケア向上について職員の意見や提案がなされている。また、職員個々の課題や意見については、必要に応じて個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段より職員の意見に耳を傾け、責任者会議の中で取り上げたり、アンケートで情報の収集に努め個人面談を含めて働き易い職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実務年数に照らし合わせながら内外の研修に参加したり、日々の業務でその都度疑問点の指導を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や講習等に参加し情報交換を行い職場内で話し合ってサービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の様々な生活歴等の情報を得たうえで日々傾聴し会話を交わし安心して暮らして頂けるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の面会時には気軽に声を掛け不安や要望に耳をかたむけ互いに協力して本人を支える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要とされている支援を見極め他のサービスを含めた適切な支援が出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人と共に過ごす一員であり、自立支援を考えながら「ここちよいわが家」を目指して互いに役割を持ち協力して暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族連絡帳等で日常の生活や行事の様子をお知らせし、情報を共有する事で家族の絆を大切にし共に支えていく関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、知人との電話の取次ぎや外食、買い物、散歩等関係が途切れないような支援に努めている。	同法人の他の事業所の利用者に知人もあり、事業所間での交流支援は活発に行われている。ご家族の協力を得ての外出や、事業所での買い物やドライブ、食事等の企画にも馴染みの関係を大切にさせる事業所の姿勢が伺える。また、余り面会に来れない家族に対しても、繋がりが途切れないよう働きかけをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人一人の性格を把握し、対人トラブルを回避する事で、孤立せず円満な人間関係を築き互いに支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の行き先を一緒に考えたり、退所後は担当のケアマネージャーを通して情報を得たり、家族様に近況を尋ねるなどの連絡を取る用に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々入居者との関わりを大切にし利用者同士の会話を聴き、思いや意向を把握したり困難な場合は家族様や日頃の生活などから本人の立場に立って考えている。	利用者の日々の変化にも配慮しながら言葉かけのタイミングや工夫をして食事、入浴等の日常生活の様々な関わりの中で、思いや意向を把握している。また、年に1回、栄養士が食事に関するアンケート調査を実施し、その結果を献立等に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活習慣や環境を本人、家族から情報収集し馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身の状態を記録に残し職員間で日々情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、関係者から情報を得、サービス計画書を作成し日々の気付きや要望、変化に応じて見直し現状に即した介護計画を作成している。	職員間の情報共有には、連絡ノートを活用し、利用者の変化する日々の様子を共有している。また、急な状態変化等、特別な時は担当者会議を開催し、柔軟に介護計画の変更もしている。さらに、主治医や訪問看護ステーションとの連携も密に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は読んだ人が頭の中で思い描けるような記録を残し職員間で情報の共有を行い実践や介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族それぞれのニーズに合わせて柔軟な支援が出来るように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや訪問美容、医療機関、消防署等の地域資源を把握し自己の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の往診、本人、家族希望のかかりつけ医への受診等医療連携を行いながら家族様と共同で送迎を含めた支援をしている。	入居の際、利用者及び家族に了解をいただき協力医療機関の医師が主治医となり、定期的な往診が実施されており、利用者及び家族に安心感を与えている。また、ご希望や必要性により外部の医療機関への受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の日々の体調変化や気付きを訪問看護師に伝え相談をし個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会をしたり、家族と連絡を取り合い病院関係者から情報を得、相談して早期退院できるような関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期の方針については契約時に十分な説明を行っている。園内研修に参加し必要時にスムーズに対応出来る様に学ぶ機会を持ち、医療関係者と方針を共有しチームで支援に取り組めるよう日頃から協力関係に努めている。	法人内の定期的な研修への参加や、指導できる経験豊かな介護職員を配置する等、重度化や終末期に向けた体制は準備されている。また、入居契約時に説明すると共に、利用者や家族の気持ちの変化にも対応できるよう、その都度、各関係者と連携を図り、今後のケアの方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しそれぞれの急変時に備え会議等で定期的に学んでいる。消防署の救急講習にも参加し実践に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を入居者と行い避難の方法が身に付くようにしている。又食料の備蓄をし消防署の定期指導を受けたり、法人全体で地域防災訓練を行っている。	毎月1回、利用者も参加しての様々な場面を想定した臨場感ある避難訓練が実施されている。また、年に一度は、消防署の指導を受けて法人全体で大規模な避難訓練を実施している。さらに別棟にある施設の2階ホールが地域の避難所に指定されており、地域との連携が図られている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや対応について日々入居者には尊敬の気持ちを持って接するよう心掛け誇りやプライバシーを損ねないように気を付けている。	日々の暮らしの中で、『名前は苗字で』『居室への入退室の際は、必ずノックと声かけを』等々、個々の利用者に対して尊厳あるケアの実践がなされている。また、個人の情報に関する重要な事柄は、責任ある取り扱いと保管を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々、何でも話し易い関係づくりに努め希望や意見を利用者の表情や全身の反応を感じ取り、話し合いながら自己決定出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分によって自己のペースで過ごされているので、その日の希望にそって安全に過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に鏡を見たり、入浴後の衣類を決めたり訪問美容の利用等本人の好みや希望に添って支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の口腔の状況や食材の好みに添って食べ易く調理をし職員も一緒に食べながら会話をして楽しみ準備、片づけ等も一緒にしている。	アンケート調査等から利用者の希望するメニューを取り入れ、栄養士が献立を作成している。また、より美味しい食事を提供するために、職員が気になった点は、栄養士や調理職員に伝え、改善を図っている。また、定期的実施されるおやつ作りは利用者と職員と一緒に調理し、楽しいひと時を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立で栄養のバランスをとり、食事、水分量を記録したり体重測定で摂取量の過不足が起こらないように注意している。また、それぞれの好みの品や習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの必要性について認識して頂けるよう説明し声掛けや一部介助をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をし入居者一人ひとりの習慣やパターンに応じた支援を行い排泄に対して不快感のない支援をしている。	利用者個々の排泄の記録から、『熟睡時を避ける』『朝方の浅眠時に声かけをする』等、習慣や排泄リズムを把握し、出来る限り不快感を与えないように排泄の支援を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録により排泄周期を把握し飲食物の偏りの無いように声掛けし生活動作を増やしたり排泄時に腹部のマッサージを行う等して便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の生活リズムに寄り添いながら安全に入浴できるよう支援し洗髪方法、湯加減等希望に合わせのんびり、ゆっくりした入浴を支援している。	希望により毎日入浴できる体制を整える等、利用者の意向や事業所の行事等にも考慮しながら入浴支援が行われている。また、浴槽へ入ることが出来ない利用者に対しては、シャワー浴や清拭等で柔軟に対応している。入浴支援は、原則職員と一対一で行われるが、職員二人体制で介助することもあり、利用者の安全面にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者は思い々の場で休息、安眠されている。空調や照明等個々の習慣にも気を付けて安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬リストで効能、効果、注意事項を把握し2～3名で配薬確認を行い誤薬、飲み忘れの無い用にしている。服薬変更時には症状の変化を観察、記録し主治医に報告、連絡し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の清掃、食事の準備、片付け等個々が役割を自ら行えるよう声掛けし生活歴や日常の会話等から趣味や嗜好品を知りそれらを活かして支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃本人の希望を聴き散歩、買い物、行事、誕生祝い等で職員や家族と外出している。行事で外食する時は店の方の協力も得られている。	高台に位置している事業所の屋外は坂道も多いため、職員の付き添いで敷地内を散歩している。また、近くのスーパーへの買い物やドライブ等も定期的実施したり、利用者がご家族と一緒に外出や外食する際の支援も行っている。	敷地内で日常的な散歩をしたり、車両を使用して定期的な外出支援もされているが、事業所専用の車両が無く他の事業所の空き時間しか利用できない現実もある。利用者の意向に沿った外出支援を実現するためにも、体制整備や工夫をして、より充実した外出支援を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の力に応じてお金を所持したり買い物時には使えるようにし一緒に値段を見ながら購入している。自己で難しい方には必要時に立て替え本人の通帳から引き落としが出来る事を伝え不安なくお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望に添っていつでも電話連絡出来る様説明し、職員が取次ぎや手紙の受け渡しをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ち良くゆっくり過ごして頂けるよう照明、採光、温度、テレビやレコードの音量等に配慮し家具の配置や観葉物、共に作ったカレンダー等を貼り居心地よく過ごせる様に工夫している。	季節感ある掲示物、利用者同士の人間関係に配慮された食事の席、ソファやテレビの配置等々、利用者全員が居心地の良い共用空間となるよう工夫されている。また、トイレの場所の案内掲示等、不要と思われる掲示は極力避け、利用者の自立への可能性を見出すと共に、普通の家庭の自然な空間が出来ている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の人間関係を把握し座席の配置やテーブル、ソファの間隔に注意して思い思いの場で過ごせる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族と共に使い慣れた家具や生活用品を持って来て頂き配置なども一緒に考え居心地良く過ごせるようにしている。	ソファ、仏壇、テレビ、洋服掛け等々、ご本人が使い慣れた愛着のある家具や生活用品を持って来て頂き、利用者が居心地良く過ごせるよう職員も一緒になって考え配置されている。プライベート空間を大切にしている事業所の思いも伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存能力を活かし出来る事は行ってもらい、出来ない事は一緒にしながら安全で無理のない自立した生活を送れるよう支援している。		